

インターネット版

白夜

第7号

(加藤会長追悼号)

2022年7月

北海道スウェーデン協会



在りし日の加藤会長

上：創立 40 周年記念祝賀会で挨拶する加藤会長
(2018 年 11 月 27 日)

中：ローバック駐日スウェーデン大使（当時）と
言葉を交わす加藤会長

下：多くの会員が集まった交歓会にて（前列左端）



私とスウェーデンとの関わりは 1967 年に
始まります。1 年間ストックホルム大学に勤
めたことによります。スウェーデンは自然が
美しく、人々が優しく、国が豊かで、私は一
ぺんにスウェーデン大好き人間になりました
。その後も数度スウェーデンを訪れました
が、この思いは変わりません。

(冊子版白夜 39 号会長就任挨拶より)

加藤会長御逝去



第二回スウェーデンソングコンテストで挨拶をする
加藤会長（2019. 7. 7）

当協会の加藤誠会長は、がんで療養中でしたが、本年 6 月 26 日の早朝に容態が急変し永眠されました。享年 90 歳でした。ここに、加藤会長の当協会に対する多大な御貢献に深く感謝し、そのご冥福をお祈りいたします。

長く会長を知る会員からは悲しみの声が寄せられましたので、ここにそれをまとめて、加藤会長追悼号といたしたいと思います。

加藤会長は、真に暖かい穏やかなお人柄で、当協会の活動をよく導いてくださいました。

その訃報は、当協会へは御子息からもたらされましたが、それは生前の会長の指示によるものだったとのことです。会長のお人柄を示すエピソードと言えるのではないのでしょうか。

冊子「Tjena!」を完成させた都度、事務局をねぎらう丁寧なメールを送ってくださったことも、また会長らしいところでもあります。

この写真にも示されているように、2018 年に

始まったスウェーデンソングコンテスト（2019 年に第二回目を開催した後、コロナ禍で中断中）の開催に際は、加藤会長は喜んで駆けつけてくださり、事務局からの開会挨拶の依頼にも快く引き受けていただきました。こういうときの挨拶を延々と続ける人もいるものですが、加藤会長は、状況を踏まえて簡潔かつ要領よく話され、コンテストが始まる期待感をよく盛り上げてくださいました。また、その後の懇親会に、日本語の分からないスウェーデン人親子が参加した際も、積極的に親子の話し相手になってくださり、その気遣いに感謝したところです。

もちろん、総会など他の多くの場面でも、多大なご活躍をいただきました。また、協会創設期からの会員として、協会の歴史の生き字引のような存在でもありました。それらの点については各会員の文章に譲りましょう。

私自身は、協会歴はそれほど長くはないのですが、限られた期間ではあっても、その人徳を体感するには十分でした。今後は、新しい会長を戴くこととなりますが、加藤会長が蒔かれた協会発展の芽を、残された私たちが大きく育ててまいりたいと考えております。

（事務局長 目黒聖直）

加藤誠会長の略歴

（詳細は、後掲の横山理事長執筆文をご参照ください）

1932（昭和 7）年 3 月 宮城県生まれ
北海道大学助手、助教授を経て、理学部層理学
教室教授
北海道大学名誉教授

北海道スウェーデン協会理事長を経て、2018 年
から会長

2022 年 6 月 26 日逝去

北海道スウェーデン協会会長加藤誠先生 を偲んで

杉本 拓（顧問・元会長）

加藤先生がご逝去されたと突然訃報のお知らせをいただき驚いています。

心から哀悼の意を表しますとともに、これまでのご功績を思い感謝申し上げます。

北海道スウェーデン協会は北大関係者やスウェーデンに留学経験のある先生たちによって創設されたと伺っていますが加藤先生はおそらく創立時からの生え抜き会員だと存じます。

私は1996年当協会会長をお引き受けいたしました。当時加藤先生は北大教授としても先輩の石田茂雄理事長（故人）を支えながら、また後にはご自身が理事長として協会運営の中心的役割を担って下さいました。特に長年にわたり協会機関紙「白夜」の投稿募集や編集を一手に引き受け発行の労を事務局とともに行ってくださいました。

2018年北海道スウェーデン協会創立40周年を迎えるにあたり、記念事業など諸行事を司るのは経験豊かな、また語学に堪能な加藤先生において他にはいないと考え加藤先生に会長をお引き受けいただきました。当協会40周年はまた、日瑞国際関係樹立150周年と重なる意義ある年となり、2月の雪祭りにはHBC北海道放送（株）が大通りに「ストックホルム大聖堂」を制作して下さるなど大きな成果をあげることができました。これからも加藤先生にご期待申し上げることは多々ありましたのに残念です。あとは先生のご遺志を受け継ぎスウェーデン協会を発展させていくことが期待されていると思います。

蛇足になりますが加藤先生はサーブ、私はボルボというスウェーデン車を愛用していました。スウェーデンに対する思いと交流を身近に

感じていたいとのお気持ちは同じではなかったかと思えます。

加藤会長を追悼して

臼井 寛（常任理事）

加藤 誠 会長 ご逝去の報に接し謹んで哀悼の意を表します。

加藤 誠 北大名誉教授は本会創設以来の唯一の会員で本会の為に無償の奉仕を今日まで毎年なされた記録保持者でもありました。先生（「会長」ですが、こう呼びます）は当会の創設者である湊正夫北大名誉教授（スウェーデン王立学士院会員）の門下で設立にかかわる諸般の事情を知っており設立にあたり湊先生と尽力された方です。先生はスウェーデンにも留学されましたし英語に通じておられましたので本会の海外からの賓客の（主としてスウェーデン）対応は先生にお任せする事が多かったしおかげで大変助かりました。スウェーデン好きの一端としてはサーブS A A Bの乗用車を愛用されていました。

当会ではボルボV o l v o を乗られる方は多いですが。

私は設立の年に入会しましたが設立総会が新聞で報道されたのでその年に入会手続きをしたのですから最初からの会員とは言えません。当時伊達市に住んでいましてその後も十勝に移動し殆ど同会の会合には出席できず1989年札幌に出てくるまでペーパー会員でしたので加藤先生にもお会いすることはなかったのです。秋山愛生館時代を過ぎ杉本 拓会長時代に入り加藤先生の出番が多くなったのでした。北大関係の世代交代が進んだからですが北大のスウェーデン経験者が少なくなったこともあるように思います。理事長を長く続けられ

ついには杉本会長勇退に伴い会長まで引き受けられました。温厚で学者ぶらない気さくな方で終始変わらない紳士でした。長年の当会に対するご尽力は誠に偉大で測る事が出来ません。永い間本当に有難うございました。謹んでご冥福をお祈りする次第です。 合掌。

加藤会長の思い出

生越玲子（常任理事、
ホイスコーレ札幌名誉代表）

北海道スウェーデン協会会長の加藤誠様の訃報に接し、驚きと寂しさでいっぱいです。

スウェーデン協会の集まりからの印象で「頭脳明晰」の言葉そのままの方とっておりました。小さなレストランの懇親会で、向かい合わせになった時など、お酒をいただきながら、拙い私の質問に丁寧に分かりよくお答えくださいました。

ある時ホイスコーレ札幌（社会人の学びの場）の仲間と貸し切りバスでフゴッペ洞窟を見学したことがありました。帰ってから加藤会長に「フゴッペ洞窟は火山灰が堆積した山ですか。火山灰ですと羊蹄山でしょうか」と質問しました。加藤会長は「あそこは砂岩質です。」北海道の日本海の海岸の地質について話され、1500年から2000年くらい前の地形について分かりよく話されました。フゴッペ洞窟壁面に描いた人々に思いを巡らしていた私は短い時間でしたが素敵な講義をいただきました。

知識豊かな方を失うのは残念です。

どうぞ安らかな眠りにつかれますよう、心よりお祈り申し上げます。

加藤会長、ありがとうございました

鈴木岳（常任理事、鈴木内科）

加藤誠会長のご逝去にあたり、心よりご冥福をお祈りいたします。

加藤先生は私が2011年に入会した当初よりお声がけをくださり、何かとお気遣いをいただきました。スウェーデンとのつながりを持っておきたいとの思いで、右も左もわからぬまま飛び込んだ協会でしたが、誰も存じ上げない会合参加は大変緊張いたしました。そんな時に、先生はいつも物腰穏やかに、若輩者の私の話を傾聴くんだり、そのお心遣いは大変緊張がほぐれ、助かりました。この憎たらしい新型コロナ流行のせいで交歓会をなかなか開けず、再会をできぬまま突然の訃報を伺い、誠に残念です。お導きをいただき、ありがとうございました。

Vi ses igen.



加藤会長に感謝の気持ちを込めて…

坂本 千鶴（常任理事）

加藤会長の訃報に接しまして、驚きと寂しさに打ちひしがれています。

何かの専門家ということでもなく唯、スウェーデンのファンというだけで北海道スウェー

デン協会に入会当初の私は緊張し、場違いでは？と感じることもありました。加藤会長はいつも穏やかに優しい眼差しで接して迎えて下さり、緊張が解れこれまで参加することができました。

加藤会長は初めて”スウェーデンソングコンテスト“を開催するにあたり、学生スタッフにも優しく応援、参加して下さい、ラストの曲を会場全員で歌い、踊り、集まった人達が「スウェーデン」を感じ合うことができました。そのシーンの加藤会長の笑顔が一番の思い出となりました。

加藤会長が編集されてきた「白夜」を今、手に取り、改めてお心遣いに感謝いたします。加藤会長ありがとうございました。ご冥福を心よりお祈りいたします。

北海道スウェーデン協会の黎明期から揺籃期の加藤 誠 会長のご活躍を偲ぶ

横山隆（理事長）

在札幌スウェーデン名誉領事館の開設を契機に

1970年（昭和45年）、在札幌スウェーデン名誉領事館が開設され、秋山康之進氏が名誉領事を拝命されました。その後、北海道ではアメリカ合衆国、ソ連（当時）、韓国、中国のほか、北方圏その他の諸国の名誉領事館が多数設立され、諸外国との友好団体も相次いで開設されました。その中でも、名誉領事館として最も古い歴史を有するのがスウェーデン名誉領事館であったと言えるでしょう。

加藤 誠 会長は1932年3月に鉱山地質技師の長男として宮城県に生まれ、1954年金沢大学理学部地学科卒業、国家公務員上級職として奉職の後、北海道大学大学院理学研究科に入学。1961年に理学部地質学鉱物学助手、1962年

に博士号を取得され、1970年助教授に昇任されています。この間、北海道大学理学部 湊 教授、ストックホルム大学ヘスランド教授の下での研究生活など経験されました。

1972年開催の札幌冬季オリンピック、1974年開催の北方圏環境会議（北海道知事主催）や毎年開催される各種の冬季スポーツ大会に参加した選手たち、1976年に行われた北海道大学開学100周年記念式典で特別功労者として名誉学位を受けられた、王立スウェーデン学士院会員でもあるストックホルム大学ヘスランド教授などの来札が続きました。

また、加藤 誠 会長の恩師にあたる北海道大学理学部 湊 教授が1972年に王立スウェーデン学士院会員に推挙された際、さらに1974年ストックホルム大学名誉理学博士の称号を授与された際にも、加藤 誠 会長は日瑞国際交流の裏方を支えられていたことを記憶にとどめておかなければならないことだと思います。

在札幌スウェーデン名誉領事館開設10周年祝賀会

在札幌スウェーデン名誉領事館は、開設以来、地道に実のある国際交流活動の実績を積み重ね、1980年（昭和55年）10月15日、北方圏センターにおいて名誉領事館開設10周年記念祝賀会が催され、ベクト・オーデバル駐日大使、東条猛猪北方圏センター会長、堂垣内尚弘知事、板垣武四市長をはじめ70名を超える出席者があり、祝賀会の席上では、スウェーデン国王から秋山名誉領事に対して長年の日瑞友好に尽くした功績を讃えて「勲1等北極星騎士章」が贈られ、オーデバル大使より伝達されました。

付帯する記念行事のひとつとしては、当日夜に一般市民向け「スウェーデン映画の夕べ」（入場無料）が道新ホールにて開催され、イングマール・ペルイマン監督（1918--2007）の作品「沈黙」（Tystnaden 英語名 The silence）が上映されました。観客は約800名に達し、会は大成功

を納めています。

もう一つの記念行事として、丸井今井デパート一条本館8階を会場に「スウェーデン展」が10月16日～21日まで開催されました。スウェーデン王室、スウェーデンの風物や日常生活と社会福祉、ノーベル賞と日本人受賞者、スウェーデンの子供たちや祭りを紹介し、スウェーデン物産展では食品、装身具及びファッション、インテリア、スポーツ用品、家電製品から自動車まで展示、一部を除いての物産は即売を行ったそうです。

秋山名誉領事主催の記念晩餐会も10月16日夜に開催され、143名に及ぶ関係の皆様が招待されました。この晩餐会においてはオーデバル大使が「日本とスウェーデン間の経済関係」と題する記念講演を行い、加藤誠会長がこの講演内容を訳出し出席者に配布しました。加藤誠会長は1981年に教授に昇任されています。

名誉領事館開設の7年後に北海道スウェーデン協会の発足

名誉領事館開設後7年経過した1977年、秋山名誉領事は、名誉領事館として7年間積み重ねてきた北海道とスウェーデンの友好親善活動をさらに促進し、お互いの知恵を活かした生活文化の向上、貿易の振興などを企図して北海道スウェーデン協会設立を思い立たれました。秋山名誉領事が自ら設立準備委員長となられ、湊教授に設立発起人代表就任を依頼されました。

1978年（昭和53年）4月28日、秋山名誉領事のご自宅で第1回設立準備会を開催し、7月17日の準備会では会則の成案、8月20日の準備会で役員候補を決めるとともに、事務所は札幌市東区北6条東3丁目秋山愛生館に設置することと決まりました。

秋山名誉領事、湊教授などの設立準備会の皆様の多大なご努力により、同年11月27日札幌グランドホテルにて北海道スウェーデン協会の発会式を開催するに至りました。この日出

席された会員は70名を数えたそうです。

発足当時の役員をご紹介しますが、錚々たるメンバーであることと発会式の熱気がおわかりいただけると思います。（以下、敬称略および所属・役職は当時のまま）

名誉会長 ベンクト・オーデバル（駐日スウェーデン大使）、顧問 堂垣内尚弘（北海道知事）、板垣武四（札幌市長）、会長 湊正雄（スウェーデン王立学士院会員・北大名誉教授）、副会長 秋山康之進（在札幌スウェーデン名誉領事）、長友浪男（北海道厚生年金会館館長）、理事 佐藤 貢（雪印乳業相談役）、東条猛猪（北方圏センター会長）、上関敏夫（北海道新聞社会長）、田上義也（田上建築制作事務所社長）、大谷龍雄（札幌国際ホテル総支配人）、伊藤義郎（伊藤組社長）、三橋 博（北大薬学部教授）、石田茂雄（北大農学部教授）、高桑栄松（北大医学部教授）、相馬純吉（北大工学部教授）、加藤 誠（北大理学部助教授：現在、北海道スウェーデン協会会長）、今井道雄（丸井今井百貨店社長）、野口博司（北海道新聞社秘書室長）、監事 西条正博（北海道水産製造本部長）、事務局長 蓮沼正年（秋山愛生館）、事務 大塚佳子、川原佳恵（秋山愛生館）。

ここに車の両輪として、在札幌スウェーデン名誉領事館と北海道スウェーデン協会が連動して動くこととなりました。

加藤 誠 会長が北海道スウェーデン協会機関紙「白夜」に寄稿された記事名をここに記します。

1984年6号 エチケット
1985年7号 スクール
1986年8号 ヘイ、ヘイ
1989年10号 なに
1991年12号 スウェーデンあれこれ セルシウス温度計、国旗の由来、王室の紋章
1993年14号 ノーベル賞の候
1994年15号 スウェーデンとの出会い
1995年16号 不思議の国スウェーデン
2000年21号 スウェーデンあれこれⅡ 国家、放射性廃棄物管理

2009年30号 私とスウェーデン
2014年35号 石田茂雄先生を悼む
2018年39号 会長就任にあたり
2019年40号 50周年に向けて

北海道スウェーデン協会の黎明期から揺籃期にかけて、改めてその歴史を振り返ってみますと、加藤 誠 会長のような素晴らしい先達のみなさまのご苦勞が蘇って参りました。

加藤 誠 会長の下、2018年（平成30年）、日瑞国交樹立150年を迎えると同時に、北海道スウェーデン協会も設立40周年の佳節を迎えました。加藤 誠 会長をはじめとした北海道スウェーデン協会を立ち上げた皆様の熱意とその原点に立ち戻ることが必要であると痛感いたしました。

加藤 誠 会長のご逝去に慎んで哀悼の意を表します。

インターネット版 白夜 第7号終わり